広報日造協

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして

日造協ニュース

Japan Landscape Contractors Association NEWS

2016. 11 月
通巻 第 512 号

発行：一般社団法人日本造園建設業協会　編集：広報活動部会　http://www.jalc.or.jp
〒113-0033　東京都文京区本郷 3-15-2　本郷二村ビル 4 階　TEL:03-5684-0011　FAX：03-5684-0012

本号の主な内容

2･3面【特集】 第 10 回 造園技術フォーラム　4 総支部と学会から多彩な発表
自然復元や地域貢献、ドローンの活用、街路樹更新モデルなど…
4 面【ふるさと自慢】高知県　歴史、祭り、食はもちろん　体験型の楽しみもいっぱい
佐々木智子（㈱佐々木造園）
【緑滴】食について真剣に考えてみる
岐阜県支部　安藤 綾子（イビデングリーンテック㈱）

日造協会員の方々への「日造協ニュース」は偶数月が PDF 版の配信で、印刷物の発送は行っていません。会員の方々へのメールニュースへの添付、日造協ホームページに掲載をしていますので、ご活用ください。

全国大会の冒頭あいさつする石井啓一国土交通大臣

「ひろげよう　育てよう　緑の都市」全国大会は、10 月 28 日、東京都港区虎ノ門の日本消防会館で開催され、全国から地方公共団体をはじめ、緑化関係者が参加した。

今回の大会は、都市公園法施行 60 周年、古都保存法施行 50 周年、国営公園制度制定 40 周年記念として、午前中の第 1 部で記念シンポジウムを開催。町田誠国土交通省都市局公園緑地・景観課長が「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方について」報告、「緑とオープンスペース政策の新たなステージ」をテーマに、（一社）日本公園緑地協会公園緑地研究所長の進士五十八福井県立大学学長、東京農業大学名誉教授が基調講演、進士所長をコーディネーターにパネル討論を行った。

午後からの第２部「全国大会」は、主催者の冨田祐次（一社）日本公園緑地協会会長が挨拶。来賓から石井啓一国土交通大臣が祝辞を述べ、各種表彰を行った。

次いで、「公園の可能性と未来」をテーマに、本間源基ひたちなか市長、清原慶子三鷹市長、久住時男見附市長が登壇、中瀬勲日本公園緑地協会研究顧問の進行で、それぞれの地方公共団体における取り組みを紹介、公園の可能性を語った。

その後、「都市公園コンクール」国土交通大臣賞、「緑の都市賞」内閣総理大臣賞受賞者から報告も行われた。

なお、表彰では日造協から、「都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者国土交通大臣表彰」を芹澤誠氏（76）茨城県県南造園土木協業組合（茨城県つくば市）、成瀬要三氏（69）成瀬緑化産業㈱（愛媛県東温市）、彌永重俊氏（65）㈱弥永緑地建設（宮崎県西諸県郡高原町）が受賞。

「第 32 回都市公園等コンクール」では、国土交通省都市局長賞を「二子玉川公園 帰真園（東京都世田谷区）」で石勝・緑進特定建設工事共同企業体が世田谷区みどりとみず政策担当部などとともに受賞。（一社）日本公園緑地協会長賞を「金沢動物園オセアニア区の再整備（神奈川県横浜市）」で横浜植木・佐藤造園建設共同企業体が横浜市環境創造局とともに受賞。審査委員会特別賞を「エリアパークマネジメントによる北本市の街区公園や地域の活性化（埼玉県北本市）」で北本・西武パートナーズが受賞した。

都市緑化功労者受賞者を囲み記念撮影

総支部長・支部長合同会議開く

日造協は、総支部長・支部長合同会議を 10 月 27 日、品川プリンスホテルで開催した。冒頭、藤巻司郎会長が挨拶。合同会議をはじめ、「花と緑のつどい」においては都市公園法施行 60 周年でもあり、多くのご来賓の方々も出席されますので、親しく意見交換を行い、有意義な会にしていただきたいと述べた。

議題は、日造協の役員・総支部・支部長、各委員会の新体制をはじめ、日造協支部事務局サイトによる情報共有（総務）、造園施工に携わる技術者を対象とした人材育成研修（技術）、要望・提言活動の実施、防災協定の締結等（事業）、各資格制度の運営・実施、各種研修会における指導者の育成（資格制度）、戦略立案部会の検討の進め方、担い手の育成・確保に向けた行動計画の制定（造園領域発展戦略委員会）、2016 アンタルヤ国際園芸博覧会報告（国際）などの報告のほか、意見交換として、総支部・支部からの報告、「造園業界の持続的な発展のために」をテーマに担い手３法・人材の育成確保、全国造園フェスティバルの今後の展開について討議を行った。

また、18 時からは「花と緑のつどい」を開催。多くのご来賓の方々が出席され、盛会となった。

樹林

（一社）日本造園建設業協会理事
㈱山梅　代表取締役会長　**山田 忠雄**

仕事＋趣味＝人生

昭和 36 年高校卒業と同時に父の経営する「山梅農園」で緑化用樹木納品を担当した私は、東京の材料問屋と呼ばれる納品先のスケールの大きさに驚き、「所得倍増計画」で急伸長している好景気を実感しました。

その後、緑化用樹木納品の傍ら、地元でも増えてきた小規模な植栽工事で実績を積み重ね、昭和 47 年社名を「山梅造園土木株式会社」に変更し、建設業登録業者として本格的に造園工事業を始めました。

◆

日本が「緑豊かな社会」へと突き進む中、群馬県太田市という東京の日帰り圏に会社が位置していることも幸いし、官庁需要、工場緑化、ゴルフ場植栽工事等の受注を積み重ね、ピーク時には完工高が 37 億円に達しました。オイルショック、バブル、リーマンショックと山あり谷ありの 40 年でしたが、社員始め周囲の人に恵まれ、昨年息子に社長職をバトンタッチすることが出来ました。

同時に、造園工事の完工高が会社全体の売上高の半分以下になり、指定管理者や太陽光発電事業等この 10 年程で取り組んだ事業の売上が、その穴を埋めている状況から、社名を「株式会社 山梅」に変え、山梅ブランドを磨き続けることを社長始め全社員に託しました。

私の半生を振り返ると、平成６年の建設業法改正で造園業が特定建設業になったことこそ重要なターニングポイントだと考えています。特定建設業になったことが業界発展の起爆剤になり、業界が発展したからこそ弊社も発展出来ました。

改めて歴代日造協会長始め諸先輩の尽力に対し感謝申し上げます。

◆

現在、建設業界は、若手入職者の減少に悩まされていますが、この問題は業界全体で対処しなければ解決しない問題です。

日造協会員の周囲に位置する加入予備会社、日造協会員協力会社に位置する中小造園会社に、担い手三法の趣旨をアピールすると共に、日本造園企業年金基金や国家資格・日造協資格取得等日造協加入メリットを説明し、協会加入社数を増やす形で造園業界で働く人の待遇改善に繋ぎましょう。

また、最低賃金を安倍首相は千円を目標としていると新聞報道に有りましたが、このことは負担出来ない企業の退場を意味しています。

日造協会員に加え、周囲の中小造園会社を含めた造園業界全体で、コスト意識を高め不当な値引き要請を拒否することが、労務単価改善に繋がります。赤字覚悟のダンピング受注を減らすことこそが、業界の発展に繋がると確信しています。

◆

最後に、人口減少、一千兆円を超える借金の重圧下、今造園業界に求められている技術は何かを考えました。それは「緑地景観の質」を高めること、誰でも写真を撮りたくなる様な景色を創る技術だと私は考えています。

景観の質を高めることは今までも行われてきました。当初設計の意図を守るべく管理もやってきました。しかし、長い時間が経過した今、当初の目論見通りに景観が保たれているのか疑問です。

生物多様性の保全、防災対応、林業技術の導入、低農薬管理等をキーワードに、施主を振り返させるような「緑地景観の質」を高める提案をすることが、成長する植物を扱う唯一の建設業、造園業がさらに発展する道だと考えています。

秋の叙勲・褒章
日造協から４氏が受章の栄に

岡村 藤美氏

加藤　薫 氏

山村文志郎氏

田中 明男氏

2016 秋の褒章受章者が発表され、日造協関係では、４氏が受章の栄に輝いた。

【旭日双光章】岡村藤美氏（74）㈱東農園代表取締役（埼玉県さいたま市）

【黄綬褒章】加藤薫氏（65）桂造園土木㈱代表取締役（秋田県秋田市）、山村文志郎氏（67）花文造園土木㈱代表取締役（滋賀県東近江市）、田中明男氏（62）㈱田中造園土木代表取締役（大阪府豊中市）

2017 新年造園人の集い

2017 年 1 月 5 日㈭ 17:50 より

品川プリンスホテル
アネックスタワー５階「プリンスホール」
東京都港区高輪 4-10-30
☎ 03・3440・1111

皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください

第10回 造園技術

４総支部と学会から発表

第10回造園技術フォーラムは10月26日、東京都江東区の豊洲シビックセンターホールで開催した。本号では発表の概要を紹介します。

藤巻会長

フォーラムは冒頭、藤巻会長が挨拶。「全国各地から多数の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。また、常日頃から日造協の諸活動に多大なご支援、ご協力をいただいております日本造園学会から、発表者として日本大学理工学部客員教授の萩野一彦先生、講評者として東京農業大学教授の服部勉先生にご参画いただき、厚く御礼を申し上げます。私どもが携わる造園工事は、多様さが特徴の一つです。また気候をはじめとする様々な環境の現場状況に応じて、いろいろな工夫が必要になります。このフォーラムは、こうした現場で工夫し、高めてきた技術やノウハウの情報共有化を図るため、平成19年から開始し、お蔭様で今年で10回目を迎えることが出来ました。

本日は、４総支部、学会からの発表と講評をいただきます。皆様には、良好な環境の保全や緑豊かな環境の創造に活かし、広く社会に役立てていただきたいと思います。また、フォーラムの後には、関東・甲信総支部主催の交流会もございます。情報の共有化を促進するためには人と人との交流も大切です。実り多き日となりますことを祈念いたします」と述べ、発表、質疑応答と講評が行われた。

閉会にあたり、卯之原昇技術委員長は、「技術フォーラムは有意義な情報交換の場として、毎年多くの方々が集まり、発表者の方々から貴重なお話をいただいています。来年は神奈川で開催します。多くの方々の参加を期待しています」と述べた。

卯之原技術委員長

発表会後は、関東・甲信総支部主催の交流会を開催。加勢充晴総支部長の挨拶の後、服部勉教授が乾杯を発声、参加者の情報交換の場となった。

加勢総支部長

閉会に先立ち、次回の造園技術フォーラムの開催地である神奈川県支部を代表し、造園技術フォーラム部会の石川正典氏が来春開催の全国都市緑化よこはまフェアを紹介。

石川部会委員

最後に次年度開催の全国都市緑化はちおうじフェアの紹介とともに田丸敬三東京都支部長が閉会の言葉を述べ、散会した。

田丸支部長

会場のようす

自然復元関連事業の取り組み ～生物多様性に配慮した事例紹介～

北海道総支部　北海道　木村 浩二（雪印種苗㈱）

木村浩二 氏

生物多様性に配慮した自然復元関連事業の事例を５つに分け、概要をご紹介します。

地域性種苗による緑化は、工事直前の調達が困難で、準備期間がなく流通種苗を使用することが多いと思います。また、実施しようとしても材料の確保が難しく、まだ採種や増殖技術が確立していない状況です。

「①自生種の採種、育苗、現地導入」は、自生地調査・採種計画、種子採取・種子精選、播種・育苗を行うものです。これまでに砂防工事後の植生復元、登山道の法面復元、海岸に近いところでは飛砂防止のための植生復元、河川護岸や河道掘削での水際植生復元、道路法面での法面樹林化などを実施し、少し変わったところでは、壁面・屋上緑化の場面で自生種植物を導入してきました。

「②自生種の採種、増殖、緑化」は、早期緑化が必要で、かつ持続性や地域性適性供給などが求められ、道路法面・山腹工などに伴う緑化の場面で利用しています。

「③環境学習・森づくり、自然再生事業」は、種まきから育苗、植樹、種拾いなどを環境学習として実施し、森づくりを企業と連携しCSR活動として進めている事例もあります。

「④都市部での利用の試み」は、省管理を目指した野の花による修景植栽、調整池や工場緑化のビオトープ造成、駅周辺の再開発にともなう都市公園での野草花壇の整備などを実施し、一部ではトンボの観察会が行われるなど、有効に利用されています。

「⑤里浜復興に向けた取り組み」は、東日本大震災後、植生が自然に回復しつつあったものの、防災工事の進行で、再び失われていることなどから、現地の種を北海道の学校などで育て、再び現地に植えるという活動を行なっている「北の里浜　花のかけはしネットワーク」に協力し、遺伝子かく乱防止などに配慮しながら取り組み、名取、石巻へと活動が広がりつつあります。

このように多用な取り組みがありますが、自然を手本に目標を定め、じっくりと長期にわたり、知恵を結集し、順応的な管理を行うことが大切です。

地方における社会貢献活動の可能性 ～21年の経験から学ぶ緑産業の未来～

東北総支部　秋田県　佐々木竜太（むつみ造園土木㈱）

佐々木竜太 氏

冒頭に「秋田グリーンサムの杜」のイメージビデオを見ていただきました。こうした当社の地域貢献が本格化したのは、平成７年に地域貢献として実施した出戸浜海岸保安林の清掃ボランティア「フィロス秋田」が県の呼びかけで毎年開催する活動になったことです。

その後、潟上市の弊社の敷地を誰でも利用できる「グリーンサムガーデン」として整備し、最寄り駅の出戸浜駅までの道路を「グリーンサムロード」として、緑化してきました。

道沿いには、「さんぽ駅」を設け、年代を問わず多くの方が利用しています。

また、県内５施設の指定管理を行い、その移動時に防犯パトロールをしようと「パークエンジェルズ」を考案し、社員はもとより、フットパスメンバーズを募り、地域のパトロールをしています。

そして、これまで当社が手がけた緑や市の公園をネットワークしていけばよりよい地域になるのではと、民間の公園「グリーンサムの杜」の整備を2011年に開始しました。

資金も限られ、少しずつ整備を行い、ニセアカシアなどが生えている藪を間伐し、ゼロエミッションも大事なテーマであることから、園路に敷くチップや地元中学生の職業体験として製材し、水路への転落を防ぐ柵に活用するなどし、昨年の６月に１期のオープンとしました。

現在の施設は、大きく４つで、「森の学校エリア」には、トレーラーハウスや炊事場、トイレ、展望台、舞台などがあり、すべて英語の授業の国際教養大学に協力していただき、子どもたちを対象にした「英語キャンプ」などを行っています。

「さんぽ駅」は、多様な利用ができる「杜のさんぽ駅」やストリートバスケットコートなどがあり、通学路になっていることから、“寄り道”する姿もあります。久しく子どもたちが外で遊ぶ姿を見なかったので、とても嬉しいことでした。

「まほろばパークゴルフ」は、９ホールの４コースを設けた収益施設です。

「杜のレストラン」「杜のカフェ」は、飲食はもとより、クラシックや高校生ライブ、スポーツ吹き矢、弾き語り教室など、レンタルスペースとして多様な利用が行え、隣接する「杜のステージ」では、コンサートやダンスも行われています。

今後、2025年のグランドオープンを目指し、Ⅱ期、Ⅲ期の整備を行っていきます。

最後に、重要なことは、「みんなで考える」「コミュニティの維持・構築（再構築）」で、地域を大切に考えることです。

現在、録音した祭囃子になってしまっていますが、私が子どもの頃のように生演奏が当たり前の地域にしていければと思っています。

グリーンサムの庭や杜と道㊤

多様な世代が親しむさんぽ駅㊦

下校時の子どもたちとパークエンジェルズ

フォーラム開く

さまざまな技術を学ぶ

ドローンを使った樹木管理

関東・甲信総支部　長野県　藤原 哲司（㈱信州グリーン）

藤原哲司 氏

ドローンで撮影した動画を見ていただきましたが、これまでにない角度からの撮影が可能になり、今後も多様な分野で利用されていくと思います。

造園業の当社では、①プレゼンテーションやお客様サービス、②施工写真、③現場管理写真として利用しています。

お客様サービスでは、維持管理現場の来場イベントで撮影した動画でわかるように、野球場に訪れた子どもたちが楽しそうに遊ぶ様子を撮影、DVD でお客様に提供し、大変喜んでいただきました。

校庭の砂場整備でも、空撮で校庭の状況がよくわかり、高い評価を得ました。

街路樹の整姿剪定では、地上から普通の樹形に見えても、上空からは電線に負荷を掛けないよう整えられているのが明確で、剪定の効果に説得力が増しました。

多様な活用ができるドローンですが、1 万円程度のトイドローンから、数千万円の映画撮影に使われるものまで数多く、機種選びに戸惑いますが、当社では中国・DJI 社の PHANTOM4 を使用しており、価格は 14 ～ 17 万円。3.5km まで通信でき、電波が届かなくなれば、自動的に操縦者に戻ってくるため、どこかにいってしまう心配もなく、電源を入れ、15 秒程度で撮影でき、操縦が初めての人でも安定して飛ばせます。

平成 27 年 12 月に航空法の改正で、人口集中地区、いわゆる DID 地区と呼ばれる場所は原則飛行禁止。前もって国土交通省の許可を受けた日時、機体でなければ飛ばせず、東京全域、地方都市でも街中では飛ばせません。

しかし、ドローンは造園業界でも効果的活用が可能です。今回の発表が少しでも皆様のお役に立ち、造園の理解につながればと思います。

人の目線からは普通の樹形だが、上空から見ると電線周りの枝がきれいに剪定されていることがわかる

街路樹更新モデル事業 ～路線選定から試行まで～

九州総支部　福岡県　栗山 和道（㈱フクユー緑地）、中村 寛孝（㈱中村緑地建設）

栗山和道 氏

中村寛孝 氏

住民要望による強剪定が行われ、いつの間にか伐採、植樹帯がアスファルトやコンクリートになるなど、街路環境の改善が必要です。日造協ニュース 9 月号にも、仙台での「街路樹が姿を消した日」が掲載され、全国的な課題となっています。ぜひ、ご一読いただき、この発表と合わせ、街路樹を見直す機会になれば幸いです。

良好な街路樹を調べると、①植栽基盤、②適切な樹種の選定、③適切な管理、④地域との合意形成－の 4 つの条件を満たしていますが、近年は管理頻度が減少し、住民要望による作業で計画的管理が行われず、街路樹や植栽帯の更新が必要になっているものも少なくありません。

このため、国土交通省九州地方整備局と日造協九州総支部などで構成する九州緑化協議会の第 30 回懇話会（平成 25 年 12 月）で「九州の街路再生と今後への提案」を行いました。

そして、翌 26 年度にどんな樹木が用いられているか、維持管理や周辺の状況などを調査し、モデル路線を設定。続く平成27年度に更新事業を試行しました。

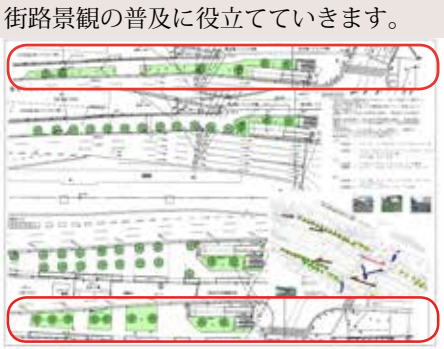
更新モデルは、高木単木の植桝方式で、基盤材を標準にしましたが、NETIS に登録されていないため、モデル整備では真砂土を用い、管理コスト軽減のため、植樹帯を植桝にし管理面積を縮小しました。

モデル整備は、現状の植樹帯 230㎡のホルトノキやヒラドツツジ、ハマヒサカキを撤去。2.5 × 2.5m の植樹枡 7 箇所を新設し、高木として常緑ヤマボウシかコバンモチ、地被としてフイリヤブラン、ジャノヒゲを植栽。防草シートや透水性高炉スラグ舗装を敷設しました。

施工 2 カ月後も良好な状態であり、今後も経過観察や管理費のモニタリングを行い、新たなモデル路線を提案中です。

今後、知見を積み上げ、良好な街路樹、・街路景観の普及に役立てていきます。

植栽２ヵ月後のコバンモチ㊧常緑ヤマボウシ㊨


モデル路線の平面図（赤枠は更新前）

アノニマスな造園について考える

（公社）日本造園学会 理事　萩野 一彦（日本大学理工学部 客員教授）

萩野一彦 氏

学会は、作品選集と技術報告集を交互に年 1 回発行しており、今日は次回作品選集で取り組もうとしていることを最新の話題としてお話したいと思います。

「アノニマス」は、「匿名の、無名の、作者不明の」と訳され、『日本の造園』IFLA 日本大会実行委員会編（1964 年）において、池原謙一郎氏の発案により「アノニマスな造園」の概念が示されたのが最初といわれています。

『日本の造園』では、古墳や神社仏閣、伝統的な集落空間、農業景観などを先代の「アノニマスな造園」とし、今日の都市やダム、橋梁、リゾート開発などを現代の「アノニマスな作品ないしは空間」とし、庭園や公園、緑地計画などの「作品化された造園」と大別。「造園家がタッチしていない造形・環境形成活動に意識して加わっていくにしたがって、アノニマス作品は、オニマス作品化し、この過程を追及していくことは造園家に与えられた課題」と述べられています。類似の概念に「百年後に公園は無くなる」井下清（1928 年）、「公園の発展的消滅」上野泰（1961 年）があり、池原氏も「公園は、作品性をベースに時の流れとともにアノニマス性が高められていくのが望ましい姿である」（1982 年）と、時間と空間の広がりを予見していました。

このように 50 年以上も前から考えられてきた、造園／ランドスケープ「作品」とは何かという問いに、空間的つまり、まちや地域への広がり、時間的つまり、マネジメントへの広がりという 2 つの方向性を明確にすることで答えようと、作品選集では、部門を「空間設計」「計画・企画」「エイジング･マネジメント」とする改訂を行い、「マネジメント」は継続的な維持管理や運営・活用により景観や環境をはじめとした社会的価値の向上を果たした「作品」としました。

具体的には、復元や再生を目指した公園、地域再生のためのパークマネジメントやエリアマネジメント、環境形成のための継続的活動などのマネジメントに関する作品があると思います。「作品」をどう捉えるか長らく議論がありましたが、これである一定の答えになったと思います。

こうしたマネジメントを注視した動きは、あらゆるところで表面化しており、国土交通省の「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」でも、「ストック効果をより高める」「民との連携を加速する」「都市公園を一層柔軟に使いこなす」と、マネジメントが、これから重視されるとしています。　また、ランドスケープコンサルタンツ協会も、都市公園再生プロジェクト研究会でパンフレット「身近な公園の再生」「ふるさとの防災と地域再生」を作成し、公園からさらに地域に広がった地域制都市公園 “ コモンズパーク ” の提案を行い、エリアマネジメントにつながる考え方などを示しています。

この実現には、新たな仕組みも必要で、造園の特色を活かす実施設計と施工を同時に行う発注方式や設計から育成までを一体的に行う造園版 CM 方式などの提案も行っています。

国土交通省でも発注関係事務の改善が図られ、設計・施工一括発注や設計段階から施工者が関与する ECI 方式、維持管理付き工事発注、包括発注、複数年契約、CM 方式、事業促進 PPP 方式など、工事の性格や地域の実情に合わせ、適切な入札契約方式を選択・組み合わせて適用するように務めることとしています。

「アノニマスな造園」をキーワードに過去 50 年を振り返り、空間や時間の広がりから、今後 50 年を展望すると、造園は、パークマネジメントからエリアマネジメントへと対象を広げ、都市の魅力やあらゆる年代の居場所、コミュニティづくりに関わり、建設業からまちづくり業に職域を変化させ拡大していくことがイメージされます。難解なテーマでしたが、造園の今後に期待を込めたメッセージとして受け取っていただければと思っています。

講評

（公社）日本造園学会 理事　服部　勉（東京農業大学地域環境科学部 教授）

服部　勉 氏

時間も短く、大変だったと思いますが、貴重なお話を聞かせていただきました。

北海道と秋田は、地域資源の活用がテーマで、北海道は植物とこれを育てる人でした。造園は単なる空間づくりではなく、いかに人間・社会と調和させるかが大きなテーマですので、人々や組織を育てることも大切です。被災地との広域連携も素晴らしいです。

公園は近年、行政がつくるもので、地域制公園は新しい概念と思うかもしれません。しかし、民営緑地は古くから日本にあり、庶民が自ら楽しめるように花を植え、人を呼び込むといったマネジメントを行い、それが名所や物見遊山などといわれ、時代とともに公園になりました。

時代は常に変化し、地域が見直される時代になり、秋田での事例はまさにコミュニティを再構築するものです。

しかし、環境学習などは、小学生くらいまでは定員を超える応募があり、皆夢中になりますが、高校生くらいだと定員割れで、興味が薄れてしまっているように思います。小さい頃の原体験が大切で、それも日頃触れていないと薄れます。

秋田の取り組みは、小さい頃からコミュニティや造園に触れる機会となっており、これから将来に向けて大きな可能性を秘めていると思います。

九州の街路樹は今後が楽しみですが、何年かすると、樹形が変わりますので、そうした時期に改めて新しい試みをはじめるなど、常に人々の関心を絶やさず、どう合意形成を図っていくか、マネジメントが課題になってくるといえます。

長野のドローンは、あれだけ綺麗な映像を撮れ、手の届く値段で手に入ることを知り、欲しくなりました。新しい技術が開発され、造園としてどう活用するかは経営にも大きく関わることであり、もっと共有すべきです。さらに、剪定効果を分かりやすく可視化した意義は大きく、分かりにくいものを、誰にでもわかるようにすることについては、造園全体でもっと進めていくべきだと思います。

萩野理事のお話は、まさにマネジメントの話しで、これからの造園は公園などの限られた空間ではなく、地域に広がり、造園＝まちづくり業という職域の変化と拡大の話で、大いに期待したいです。

今回のフォーラムをはじめ、皆さんのさまざまな取り組みが日造協で紹介され、本日のお話なども含め、技術報告集、作品集などを通じ、広く社会に知っていただくことがこれからの造園の発展に繋がっていくと思います。

ふるさと自慢 高知県

歴史、祭り、食はもちろん 体験型の楽しみもいっぱい

沖ノ島※（宿毛市の南西沖 25km地点）

四万十川※

カヌー※

吾川スカイパーク（パラグライダー）※

高知といえば、幕末のヒーロー坂本龍馬や、真夏の祭典よさこい祭り、鰹のタタキに代表される豊かな食を連想させる方が多いと思います。

今回は、高知の特色を生かした体験型の楽しみ方をご紹介いたします。

◆

まず、私の独断で言えば、高知を堪能していただくには春夏がおすすめ。

連休には太平洋の海岸線を走るライダーで溢れ、海沿いのキャンプサイトは県外ナンバーで賑わいます。

サーフィンやシュノーケリング、フィッシングやシーカヤック、最近はやりのパドルボードなど、室戸岬から沖ノ島まで、いくつものポイントで遊ぶことができます。

私がいつか体験してみたいのはホエールウォッチング。人懐っこいクジラやイルカ達は、船のすぐそばまで挨拶に来てくれるそうです。

◆

全国的に有名な清流四万十川や、地元民推し№1の仁淀川では、深い緑と透明の青の中、遊覧船やカヌーを楽しむことができます。よりアクティブ派は、吉野川で激流ラフティングもいいですね！

山の遊び方も個性豊か。小鳥のさえずりの中散策し、滝でマイナスイオンを浴びた後は、パラグライダーに挑戦するのもいいかも。その気になれば人間、空も飛べるんですね。

◆

たっぷり遊んだあとは、温泉でその日の疲れを癒し、夕食には高知の旬をたっぷりいただいてくださいね。

そして一日の最後には、夜空を見上げてください。満天の星は、自然豊かな高知県観光の醍醐味です。

高知大丸　久保田食品「大丸焼」

加えて、高知のおすすめグルメを１つ。こだわりのアイスクリームで有名な久保田食品が手掛ける高知大丸限定の味、その名も「大丸焼」。優しい生地とみずみずしい餡が絶品。まあ食べてみいや～

◆

休暇には、ぜひ高知に遊びに来てください。ご紹介したものは全て天候に左右されるので、日頃の行いに気を付けることをお忘れなく…

佐々木智子（㈱佐々木造園）

※（公財）高知県観光コンベンション協会提供

ホエールウォッチング※

緑滴

食について真剣に考えてみる

岐阜県支部　安藤 綾子
イビデングリーンテック㈱

私は究極の面倒くさがりである。なるべく料理をしたくない。なので、手軽で健康に良い食事について真剣に考えてみた。

◆

まず、身体に必要な栄養成分は何なのか、どれくらいの種類があるのか、グーグル先生に聞いてみた。

すると、答えは必須栄養素が 46 種。「必須栄養素とは個体の体内で生合成できない（まったく出来ないかあるいは十分な量を合成できない）ものを指し、外界から個体が摂取する必要がある物質をいう」だそうだ。（Wikipedia フリー百科事典より）

◆

次に、その栄養素がどの食べ物から効率的に摂取できるかを調べてみた。

どうやら栄養成分 46 種類と言っても、肉、魚、牛乳、納豆、玄米、バナナを食べておけば、40 種類は摂取できるようだ。（細かく述べると肉はレバー、魚はイワシ、サンマなどの指定があるが、そのあたりは省略）

夕食の写真

◆

というわけで、具体的に献立を考えてみた。

まず朝食は、バナナ、シリアル、牛乳。たまに牛乳をヨーグルト、豆乳に変えてもでも良さそうだ。

次に昼食、お弁当が持参できる場合は、バナナ、納豆、豆腐、玄米。

最後に夕食だが、昼食の献立に焼き魚をプラスし、キムチを添える。焼きのりがあればなお良い。

そして、時間に余裕がある週末は、肉、魚、野菜を使い、自分が食べたいものを作る。

◆

上記の献立であれば、フライパン、まな板、包丁が登場するのは、週末のみ。洗い物も少なく、何よりリーズナブル。

欠点といえば飽きがきてしまうことだが、普段が質素な食事であれば、外食がとても美味しくありがたみを感じ、いつも以上に味を楽しめるはずだ。

以上が面倒くさがりの私が食事について真剣に考えた結果である。

日造協新入会員のご紹介　2016.5.30 ～ 10.30

社名 / 住所 ☎	代表者 /FAX	
㈱カジオカＬ．Ａ 広島県広島市安佐北区口田南 7-7-23 ☎ 082-843-2020　FAX 082-843-2079	梶岡 幹生	
㈱平成造園 沖縄県那覇市首里石嶺町 2-72-7 ☎ 098-887-5822　FAX 098-885-8588	神谷 朝貞	
㈱砂押園芸 茨城県ひたちなか市高野 48 ☎ 029-285-0233　FAX 029-285-5665	砂押 一成	
徳山植木造園㈱ 山口県周南市今宿町 1-5 ☎ 0834-21-0841　FAX 0834-21-7757	中津 正道	
㈱大幸造園 京都府京都市左京区田中里ノ内町 45-1 ☎ 075-701-5631　FAX 075-723-5717	石岡 寛一	
㈱きたむら園 神奈川県横浜市戸塚区東俣野町 1231 ☎ 045-851-5566　FAX 045-851-2828	北村 光清	

社名 / 住所 ☎	代表者 /FAX	
㈲みどり建設 島根県松江市東津田町 1727 ☎ 0852-27-8658　FAX 0852-27-5450	持田 冬樹	
㈲前川グリーン土木 沖縄県中頭郡嘉手納町水釜 562-3 ☎ 098-956-5117　FAX 098-956-5106	前川 善明	
㈱根城グリーン建設 青森県八戸市西白山台 6-9-21 ☎ 0178-27-6733　FAX 0178-27-6744	山下 英夫	
㈱新潟造園土木 新潟県新潟市東区船江町 2-16-20 ☎ 025-275-4122　FAX 025-275-4126	渡邉 英愼	
吉村造園㈱ 京都府京都市左京区北白川下池田町 145 ☎ 075-721-8866　FAX 075-722-4545	吉村 嘉博	
㈱誠和緑化 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-91-18 ☎ 045-712-0171　FAX 045-731-8823	石田 力也	

事務局の動き

【11 月】
1 ㈫・建設業取引適正化推進月間　～ 11/30
　・地域リーダーズ勉強会　～ 11/2
2 ㈬・予算・税制等に関する政策懇談会
7 ㈪・総務企画部会
　・かながわのみどりの集い
8 ㈫・広報活動部会
　・北海道総支部・支部交流会及び開発局等との意見交換　～ 11/9
9 ㈬・北陸総支部と北陸地方整備局との意見交換会
　・中国総支部と中国地方整備局との意見交換会
11 ㈮・自民党特別委員会、議員連盟、合同会議
11 ㈮・植栽基盤診断士認定試験（実技）　～ 11/13
14 ㈪・会員拡大Ｐ推進部会
15 ㈫・新春座談会
16 ㈬・関東総支部・支部交流会及び現地視察～ 11/17
17 ㈭・植栽基盤診断士認定試験（実技）～ 11/18
22 ㈫・北陸総支部・支部交流会
28 ㈪・技術・技能部会
29 ㈫・植栽基盤診断士認定委員会（試験部会）

【12 月】
1 ㈭・登録造園基幹技能者講習（大阪）　～ 12/2
2 ㈮・中部総支部・支部交流会
5 ㈪・運営会議
6 ㈫・広報活動部会
6 ㈫・近畿総支部・支部交流会
7 ㈬・近畿総支部と近畿地方整備局との意見交換会
8 ㈭・街路樹剪定士認定委員会（試験部会）
9 ㈮・九州総支部・支部交流会
　・植栽基盤診断士認定委員会
12 ㈪・東北総支部・支部交流会
13 ㈫・人材育成部会
14 ㈬・国際委員会
15 ㈭・街路樹剪定士認定委員会
16 ㈮・四国総支部・支部交流会

委員会等の活動

●技術技能部会
造園施工に携わる技術者を対象とした人材育成研修の実施について、実施要綱や講師、テキスト、スケジュールについて検討した。（10/17）

●安全部会
造園用胴ベルト型安全帯の取り扱い方法と販売、ロープ高所作業特別教育、「足場の設置が困難な剪定作業標準マニュアル（案）」の編集、造園工事 維持管理業務等の事故に関するアンケートの実施について検討した。（10/20）

●人材育成部会
地域リーダーズの活動支援、造園ＣＰＤ単位取得の促進、経営者向けの研修会、造園施工管理技術検定の受験対策講習会や職長・安全衛生責任者講習の企画について検討した。（10/5）

●資格制度委員会
資格運営に共通する課題（教材の改訂方法、指導者の養成方法）と、「街路樹剪定士制度」「植栽基盤診断士制度」「登録造園基幹技能者制度」について、支部からの課題・要望と新制度について検討した。（10/25）

●植栽基盤診断士制度部会
学科試験の合否についての審議と、実技試験の実施方法について検討した。（10/7）

編集後記　ＪＲ博多駅前の道路陥没事故。大事故にも関わらず、死亡者・重傷者がいなかったことに、驚いた人も少なくないと思います。事故の予兆を察知した業者の素早い対応が被害を最小限に食い止める要因になったとのこと。日頃の危機管理意識が大切だなと改めて感じました。

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！